自ら問い、自ら導く学生たち

水の中でオールを漕ぐと、かなりの抵抗がある。それでもいかに無駄な力を使わずに、スムーズにオールを動かすことができるか。ビデオを見ながら日夜研究をしている。

「ボート中心の生活ですが大学の授業も手を抜きません」

漕艇部に所属する新中さやかさんの朝は早い。埼玉県にある戸田漕艇場で毎朝5時には乗艇練習を始める。長距離をゆっくり、短距離を速くといったメニューで1時間半ほどボートを漕ぐ。その後大学に行き、講義が終わると、夕方再び練習にとりかかる。

ボート競技は、1000メートルや2000メートルの直線距離のタイムを競う。両手に1本ずつオールを持つスカル系、1本のオールを両手で持つスウィープ系があり、1人乗りから8人乗りなどに分かれている。

「オールを使って腕の力で漕ぐというより、足で押して動かす感覚に近いでしょうか。瞬発力と持久力の両方が必要な競技だと思います」

新中さんが出場するのは、主に1人乗りのスカル競技だ。2009年は、東日本新人選手権で優勝。2010年は、東日本大学選手権で優勝、全日本大学選手権では3位という好成績を残している。

現在、女子主将を務める新中さんだが、実はボートを始めたのは大学に入学してからだという。

「新入生向けの試乗会で初めてボートに乗り、あまりに楽しかったので、すぐに入部を決めました。高校までは勉強ばかりで、運動経験もありませんでした。そんな私でもトレーニングを重ねるうちに身体も引き締まり、筋力、体力ともに向上してきました」

しかし、他大学を含めて、ボート部員には高校時代からの経験者も多い。来年に向けた新中さんの課題は、さらなる筋力アップと、ボートを漕ぐ技術力の向上だ。来年の全日本大学選手権ではなんとしても優勝したいと語る。

子どもの頃から「お医者さんになりたい」という夢を抱いていた新中さんは、2008年に東京医科歯科大学医学部医学科に入学。教養教育を経て、現在は生体と病気のメカニズムを講義や実習で学んでいる。講義内容も一気に専門性を帯びてくるが、新中さんはボートも勉強も、どちらも手を抜かない。

「勉強が大変なのはほかの部員も同じ。皆、学業もスポーツも頑張っています。私は、一度に1つのことに集中する性格なので、平日の放課後はボートの練習、週末は勉強に専念しています」

5年次以降は、臨床実習が中心となり、病院や診療所などの医療現場で学ぶ機会も増えてくる。新中さんは、「今は必要な基礎知識を十分に身に付けながら、将来の方向性を固めていきたい」と目を輝かせる。何事にも手を抜かない彼女には、無限の可能性が広がっている。

新中さやか

（しんちゅう・さやか）さん
医学部医学科3年
漕艇部

●医学部医学科3年の新中さんは、前期に解剖学実習を経験したばかり。初めての人体解剖では衝撃を受けたが、以来、ヒトのカラダへの見方が変わったという。最近では感染系の実習で細菌培養の実験も経験。「医者の仕事には臨床以外に研究もあるのだと知り、研究にも興味がわいてきた」と語る。